

Mucinous phenotype and CD10 expression of primary adenocarcinoma of the small intestine

熊谷, 玲子

<https://doi.org/10.15017/1654981>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済



氏 名：熊谷 玲子

論 文 名：Mucinous phenotype and CD10 expression of primary adenocarcinoma
of the small intestine

（原発性小腸癌における粘液形質と CD10 発現）

区 分：乙

論 文 内 容 の 要 旨

目的：原発性小腸癌における形質発現、臨床病理学的特徴、遺伝子変異およびマイクロサテライト不安定性（以下、MSI）の関係を明らかにする。

方法：1975-2005 年の間に、当教室で原発性小腸癌と診断された 47 例を研究対象とした。臨床病理学的事項（年齢、性別、腫瘍径、肉眼型、組織形態学的分類、深達度、静脈浸潤、リンパ管侵襲、リンパ節転移）を見直し、MUC5AC、MUC6、MUC2、CD10 およびミスマッチ修復（以下、MMR）タンパク（MLH1、MSH2）について免疫組織化学染色を行った。KRAS 遺伝子と BRAF 遺伝子の変異、MSI について解析した。

結果：症例は男性 29 人、女性 18 人で、平均年齢は 59.9 歳（23-87 歳）であった。腫瘍発生部位は、十二指腸 14 例（30%）、空腸 21 例（45%）、回腸 12 例（25%）であった。形質発現については、MUC2 陽性症例が 20 例（42.6%）、MUC5AC 陽性症例が 12 例（25.5%）、MUC6 陽性症例が 4 例（8.5%）、CD10 陽性症例が 7 例（14.9%）であった。MUC2 陰性症例と比較し MUC2 陽性症例では、腫瘍径が有意に大きかった。腺腫成分を有する小腸癌 3 例はすべて、MUC2 陽性であった。CD10 陽性症例では、肉眼型が隆起型を示す割合が有意に高く、腫瘍径は有意に大きかった。MSI が解析可能であった 34 例において、高マイクロサテライト不安定性（以下、MSI-H）を呈した症例は 4 例であった。MUC2 と MUC5AC が共に陽性となった 4 例のうち、3 例（75%）は MSI-H であり、また、3 例（75%）は粘液癌であった。KRAS 遺伝子変異は 4 例で認められた。KRAS 変異のあった症例は全て MUC2 のみ陽性で、MUC5AC、MUC6、CD10 は陰性であった。

結論：これらの結果から、原発性小腸癌の形質発現は、生物学的悪性度、遺伝子変異および MSI の状態と関連することが示唆される。